

# 大阪文化の

## 広報力を高め正しく伝える

の方々、現在、国と大阪府、大阪市、そして財界からの助成によって賄われていますが、大阪府からの助成が毎年減少の一途にあり、非常に厳しい状況にあります。私たちの世代で人材の継続的な

養成がままならないとなると、後世の歴史的審判を受けることにもなるかと思えます。このことは上方演芸資料を守り活用されているワッハ上方や、児童文学研究の貴重な資料を保存・活用されている大阪国際児童文学館とて同じことでしょう。私たちの世代の責任というものを、今一度考え、果たしていくべきであると考えます。

武田 まさにその通りだと思います。ところで私たちが今、共通認識として「大阪文化」と呼んでいるのは、西鶴や文楽に代表される近世の文化であり、近代の大大阪時代からの文化です。しかし、日本全国で一般に大阪文化と呼ばれるものは何かといえば、「お笑い」や「たこ焼き」でしょう。そうした大阪文化への非常に歪曲され矮小化されたイメージによって、大阪人が自信と元気をなくしているのではないのでしょうか。また、大阪に対する誤ったイメージを生んでしまったのは、大阪の広報のしかたが下手なのではないかと思えます。誰かが声を大にして「大阪はそうじゃない」と言わなければなりません。これに関して最近痛切に感じたことをご紹介します。それは『天満切子』についてです。大阪は日本のガラスの発祥の地で、和漢三才図会（わかんさんさいずえ／1715年）にその記述があり、大阪天満宮脇にその碑が建っています。長崎に上陸したビードロやギヤマンの製造技術が大阪・天満に伝えられ、大阪で初めて吹きガラスや色付ガラスの製造がはじまりました。ところがこの事実は、日本全国でほとんど知られていません。いったん途絶えた薩摩切子を初めて復元したのも大阪ですが、宣伝上



『大阪ガラス発祥の地』碑  
(大阪天満宮脇)



文楽人形遣いの桐竹勘十郎さん(手前)と吉田義二郎さん(奥)から、二人三番隻の人形指導を受ける子どもたち(大阪市立高津小学校)



天満切子



大川と中之島剣先公園